

平成25年5月30日

杉並区議会議長
井口 かづ子 様

清掃・エネルギー対策特別委員会
委員長 脇坂 たつや

清掃・エネルギー対策特別委員会活動経過報告書

清掃・エネルギー対策特別委員会の活動経過について、下記のとおり報告します。

記

1 活動年月日

- (1) 平成25年3月4日 報告聴取
- (2) 平成25年4月12日 報告聴取

2 活動経過

- (1) 3月4日

(仮称) 杉並区地域エネルギービジョンの検討状況について

庁内検討委員会と学識経験者、区民、事業者等から成る懇談会を開催し、意見聴取や論点の整理を経て、中間のまとめを作成した。それをもとに、区民意見交換会、区民アンケート、事業者アンケート、アイデア募集を行い、区民意見の反映を実施しているとのこと。

今後のスケジュールについては、3月にまとめを行い、4月にパブリックコメント募集、5月にビジョン策定、6月に議会等への報告の予定とのこと。

中間のまとめについては、ビジョンの副題を「これからの杉並区のエネルギー政策の方向」とし、目に見えないエネルギーや目指す将来像を分かりやすくするために、イラストやイメージ図を多用しているとのこと。本編は、絵だけで見せるのではなく、もっと文章を多くして文章でも分かりやすいものにしていくとのこと。

続いて、中間のまとめの概略説明があり、ビジョン策定の背景と目的については、従来の環境政策としての省エネ、再生エネルギーの導入拡大に加えて、東日本大震災によって明らかになった課題を踏まえ、区民のくらしの安全・安心を守る杉並区としてのエネルギー政策の方向、区民の暮らしの快適性と安全性の確保、環境にやさしい街をつくるエネルギー創造都市、地域分散型のエネ

ルギー社会をつくることを含めて、基本的な方向をまとめるとのこと。

計画の期間については、環境基本計画、総合計画と同じく9カ年、33年度を終期としているとのこと。

エネルギーから見たまちの将来像としては、太陽光、太陽熱、コージェネレーションでエネルギーを得て、それを蓄電池や電気自動車などに蓄えて、いざというときに、停電しても電気が供給されるまち、建物の低炭素化を含め、まちや住宅単位でエネルギーを無駄なく効率的に活用するまちであるとのこと。

エネルギーと通信情報技術を組み合わせ消費電力が最適な状態になるようにコントロールされたスマートコミュニティづくりの推進、電力供給を大規模電力事業者に頼り過ぎないように特定規模事業者からの電力購入の更なる推進、現在建設中の杉並清掃工場で見込まれる余剰電力の活用を考えているとのこと。

また、災害時拠点に自家発電や蓄電機能を強化し、災害弱者の安心・安全を確保するまちも将来像として掲げているとのこと。

現在の杉並区の問題点としては、自前のエネルギーがほとんどないということ、水力発電や風力発電には不向きな自然特性があること、効果的な再生可能エネルギーの活用や省エネルギーの仕組みづくりが不足していることがあるが、だれでもが、いつでも安心して快適に暮らせるまち杉並を作っていきたいとのこと。

以上、報告を聴取し、質疑応答を行いました。

(2) 4月12日

地域エネルギービジョン（案）の策定について

地域エネルギービジョン（案）について、懇談会等からの意見を踏まえて、取りまとめを行ったとのこと。

ビジョンの概要、基本的な考え方は、東日本大震災を契機として明らかになったエネルギーに関する課題への対応を背景として、区民の暮らしの快適性、安全性を確保して、いざ大規模震災が起きたときにエネルギーで困らない分散型のエネルギー社会を構築するとともに、省エネ、省資源を一層推進して、環境にやさしい街を創造するため、地域特性を踏まえたエネルギー政策の基本的な方向をまとめるものであるとのこと。

計画期間としては、総合計画と終期を併せて平成33年度までとし、環境基本計画、総合計画の改定に合わせて見直しを行うとのこと。

ビジョンで描くまちの将来像としては、「災害に強く快適で環境にやさしいエネルギー創造都市 誰もが、いつでも安心して快適に暮らせるまち すぎなみ」を目指して、平常時は、「ふだんから災害に備えのある環境にやさしい安全で快適なまち」、災害発生時は、「いざ大規模災害が起きてもエネルギーで困らないまち」という姿を描いているとのこと。ビジョンの目標を3つ、それにしたがって重点項目を3つ挙げているとのこと。

1つ目の目標は、「杉並産エネルギー創出」として、省エネルギー、創エネルギー、蓄エネルギーを掲げている。目標数値は、震災前後の比較のため、22年度との比較で目標を設定しているとのこと。省エネルギーは、節電対策により、現時点では、既に達成できているのでこれを継続、創エネルギーは、太陽光により、区内の電力消費量の2%を目標、蓄エネルギーは、電気自動車の活用の推進や蓄電池の整備の推進等を挙げているとのこと。

次に「スマートコミュニティづくりの推進」として、モデル地区指定によるスマートコミュニティづくりをはじめ5点挙げているとのこと。

3番目に「区民へのわかりやすい情報提供と自主的な参加促進の仕組みづくり」として、周知啓発・相談事業の拡充、エネルギー施策への区民出資によるエネルギー創出と配当の分配による区内でのエネルギーと富の循環の仕組みづくりなどを挙げているとのこと。

重点項目については、1つ目は、災害時の避難・救援拠点における必要最低限のエネルギー確保、2つ目は、木造住宅が集まる地域の建て替えや地区計画に併せた、住宅の省エネ化によるスマートコミュニティのモデル地区づくり、3つ目は、区民出資による再生可能エネルギー整備の仕組みづくりであるとのこと。

これらの取り組みと併せて「災害に強く快適で環境にやさしいエネルギー創造都市 誰もが、いつでも、安心して快適に暮らせるまち すぎなみ」という将来像を達成していきたいとのこと。

今後のスケジュールとしては、区民等の意見提出手続きの実施、成案を策定し、第2回定例会で委員会に報告するとのこと。

杉並区一般廃棄物処理基本計画（案）の策定について

杉並区一般廃棄物処理基本計画（案）は、環境清掃審議会の答申を踏まえ、基本構想や総合計画との整合性を図りつつ、平成22年度を基準年度として、短期、中期、最終目標をそれぞれ設定し、廃棄物の発生抑制、減量化、資源化の取り組みなどを区民、事業者、NPO、区等が役割分担のもとに一体となって推進していくため、策定されるものであるとのこと。

目標達成に向けた取り組みとしては、5項目を掲げているが、主なものは、粗大ごみや不燃ごみの中の金属類の資源化やスマートフォン向けアプリケーションの開発による啓発があり、家庭ごみ有料化と戸別収集に頼らない新たな手法により、ごみ減量を図っていくものであるとのこと。

今後のスケジュールとしては、パブリックコメントを実施、6月に本計画を策定し、公表する予定とのこと。

以上、2件の報告を聴取し、質疑応答を行いました。

以上